



ISO 9362:2014 - BIC Implementation White Paper

(日本語抄訳_スイフトジャパン作成 2014年:本書は日本語参考訳であり、英語版が優先します。)

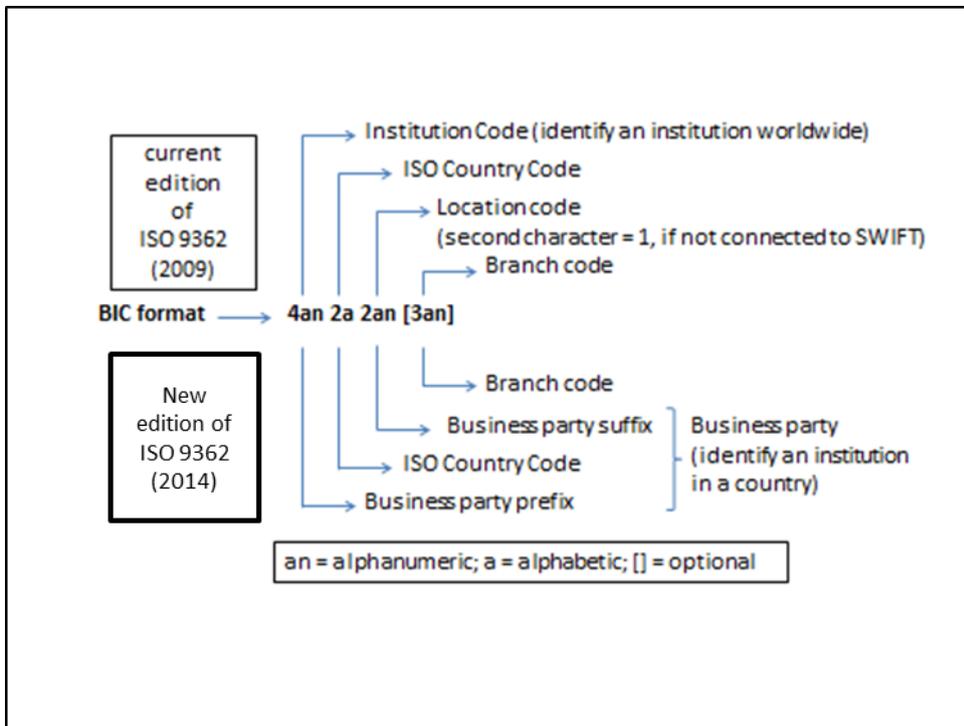
1. 背景

- Business Identifier Code (BIC) は、International Organization for Standardization (ISO) で定めている標準である。ISO 9362:2014 に定義されている。
- ISO 9362 について、SWIFT はネットワーク・プロバイダーとして BIC をそのサービスに利用している。また、SWIFT は ISO 9362 の登録局 (Registration Authority : RA) であり、ISO 9362 の導入について責任を負っている。SWIFT のユーザーは、BIC を電文送受信における“住所”として利用し、また SWIFT 電文における金融機関等の識別コードとして利用している。
- 改訂版標準は、2014年1月に ISO において承認された。RA と SWIFT のユーザーは、これを導入する。また、RA と SWIFT のユーザーには、2015年1月から2018年11月までの移行期間 (改訂の影響と必要な対策を検討するための時間を含む) が設けられている。
- 標準に加え、ISO は登録・掲載・メンテナンスのガイドラインとなる BIC 登録手順を定めた。
- 最終改訂版標準は近日中に ISO によって公表される。BIC 登録手順の最終版は標準の公表後、www.swift.com に掲載される。この新しい登録手順は、2015年1月より現行の SWIFT BIC Policy を代替する。

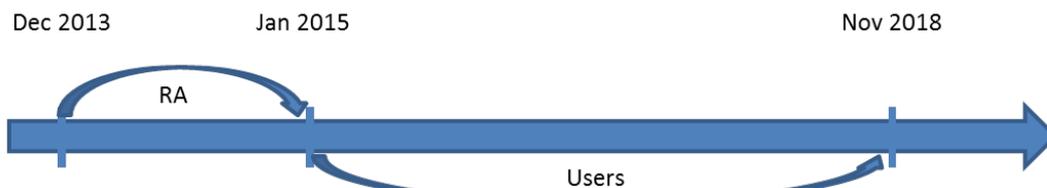
2. 標準改訂

- 現行の BIC は 20 年以上前に定義されたデータ構造に基づいており、単一のコードに複数の情報が含まれている。SWIFT ネットワークに接続されていない BIC には 8 桁目に ‘1’ を使用 (‘BIC1’ とも言う) する。BIC は BIC ディレクトリーに掲載されている。
- ISO は標準を維持する責任を負う。ISO のガバナンスの範疇において、ISO 9362 は Technical Committee (TC68) 及びそのサブコミッティー (SC7) が管理している。標準改訂は関連する業界の代表で構成される Working Group (WG11) が行い、SC7 のメンバーである 24 の国レベルの標準化団体の投票によって承認された。
- 標準改訂は、2014年1月の投票において賛成多数で承認された。これにより標準に新しい要素が取り入れられ、またネットワークから中立かつこれに縛られないものとなった。
- BIC の基本的な構造 (8 桁のコードとブランチ・コード追加のための 3 桁の任意のコード) は変わらないが、コードに含まれる要素が再定義された。(次ページの図を参照)
- 改訂版標準では、SWIFT のネットワークにおける参照情報が除かれ、Business Party (BIC で確認される機関) 及び特定のレファレンスデータ属性情報を含む BIC データレコードのコンセプトが取り入れられている。また、BIC データレコードの正確性とメンテナンスは BIC 所有者の責任となることが強調されている。この改訂では、SWIFT がその二つの役割をよりよく分離できるようになっている: (1) ISO 登録局 (RA) として標準準拠の BIC を割り振り、定められた BIC 登録手順に基づいて作業する、(2) ネットワークのサービスプロバイダーとして、ネットワークの運営に必要なディレクトリー・サービス及びネットワークに接続している機関の認定を行う。
- この分離による最も明らかな変化は、2018年11月以降、SWIFT のネットワークへの接続、非接続によって BIC が変更されることがなくなる点である。(現在は、SWIFT のネットワークに非接続であれば 8 桁目が ‘1’、接続している場合にはその他の英数字が使用されるため、接続状況の変化に伴い BIC が変更される。) 改訂版標準においては 8 桁目 ‘1’ による接続・非接続の分別がなくなるため、接続状況の変化があっても BIC は変わらない。例外的に、2018年11月より前に BIC1 を取得した (SWIFT ネットワークには非接続の) 機関が 2018年11月以降に SWIFT ネットワークに接続した場合、BIC が変更される。

- RAとして、SWIFTはすでに改訂版標準の導入ならびに新しいBIC登録手順の導入を開始しており、これらは2015年1月より実施される。2015年1月から2018年11月までは移行期間となる。ネットワークのサービスプロバイダーとしてのSWIFTは、コミュニティーにおける改訂版標準導入をサポートするために、そのディレクトリー・サービスを拡張する。
- ISOによって定められたBIC登録手順に加え、SWIFTはSWIFTのネットワーク(SWIFTNet および SWIFTNet FIN) でBICを利用するユーザーのためのルールを作成する。



3. ユーザーのための導入アプローチ



- Standard approved
 - New processes
 - Enhanced directories
 - Start of transition period
 - End of transition period
- この White Paper では、それぞれの変更とその影響の詳細を述べる。SWIFT のユーザーは、多くのシステムで BIC を利用しているため、BIC を利用しているシステムの特長と改訂版標準によるシステムへの影響分析を行い、必要な修正を行うこととなる。
 - BIC のユーザーに円滑な新標準への移行を促し、レガシー・システムへの不必要な悪影響を避けるため、ISO は 2015 年 1 月から始まる 4 年近い移行期間を承認した。
 - 長期の移行期間中に、ユーザーは今後予想される業務要件の変化を想定して改訂版標準導入を検討することが望ましい。また、すでにレガシー・システム変更の可能性がある場合には、改訂版標準導入を併せて検討することができるだろう。

4. 影響を受けない分野

- このセクションでは、改訂版標準により影響を受けず変更が生じない点について述べる。

4.1 既存の BIC

改訂版標準と新しい登録手順は、導入済みの既存の BIC には影響しない。既存の BIC は現行のまま継続使用される。

4.2 BIC の構造

BIC の構造は変化しない。BIC は 8 桁のコードであり、‘business party identifier’である。

(1-4 桁目は英数字の party prefix、5-6 桁目は英字の国コード、7-8 桁目は英数字の party suffix)。9-11 桁目のブランチ・コードは、同じく 3 桁の英数字で、任意で設定される (8 桁 BIC を所有する機関の特定の所在地、部署、サービスや部門を表す)。

4.3 英数字 BIC

ISO 9362 の前エディションでもすでに 1-4 桁目における英数字の使用が定められていた。SWIFT はこれを積極的に導入しておらず、現段階ではアルファベットのみを使用している。これは改訂版標準導入後も継続する。(アルファベット 4 文字では 456,976 の組み合わせが可能で、11 万件の BIC が発行されている現在においてもその組み合わせが不足となることは考えにくい。)

RA では、1-4 桁目に数字を使用することを予定していない。しかしながら、ソフトウェアベンダーには標準に準拠して 1-4 桁目を英数字で検証を行うことができるアプリケーションの開発を推奨している。

4.4 国コード

5-6 桁目での国コード (2 桁の英字) 使用は変わらない。データベース管理促進のため、SWIFTRef ディレクトリーの属性情報に国コードと国名を追加する。

国コードは、ISO 3166 標準が定義する。ISO 3166 の国コードは、国や領土の主たる行政管轄の名称を表象する。BIC では、国コードにより当該機関の所在地 (国や地理的領土) が特定される。また、BIC で使用される国コードは、登記上の住所を反映しなければならない。

4.5 テスト&トレーニング BIC

テスト&トレーニング (T&T) BIC は、SWIFTNet FIN のサービスで使用されており、8 桁目に必ず ‘0’ が付与される。これらは BIC ディレクトリーには掲載されていない。T&T BIC の構造は今回の改訂の影響を受けない。

5. 移行期間中の扱いについて

- RA は 2015 年 1 月末までに改訂版標準を導入するが、この時点をもって移行期間が始まる。SWIFT のユーザーへの業務上の影響を制限し、各ユーザーがそれぞれのペースで移行できるよう移行期間は 2018 年 11 月末まで設けられている。

5.1 接続ステータスに関する属性

現在、8 桁目が BIC の SWIFTNet FIN 接続ステータスを表している。(8 桁目が ‘1’ の場合は非接続、その他 0 を除く英数字の場合は接続あり。) 非接続から接続に変わる場合には、既存の BIC1 を削除し 8 桁目に異なる英数字を使用する BIC を付与する。移行期間中はこの方法を継続し、移行期間終了時に廃止する。

移行期間より、SWIFT は SWIFTRef ディレクトリーに各機関の接続ステータスを表現する新しい属性を追加する。この属性は、BIC1 の 8 桁目の情報 (1=SWIFTNet FIN 非接続) を示すとともに、SWIFTNet FIN 以外の SWIFTNet のネットワークサービスに関する情報を示す。移行期間中、BIC1 は現在と同様に取り扱われる (BIC1=SWIFTNet FIN 非接続)。

Connectivity status (接続ステータス)	Attribute (属性)	BIC example
No SWIFTNet and No SWIFTNet FIN	001	ABCDBEB1
SWIFTNet but No SWIFTNet FIN	002	ABCDBEB1

SWIFTNet and SWIFTNet FIN	003	ABCDBEBB
.....		

BIC 付与の手続きにおいて現在問題が認識されている点については、移行期間中に改善される。新しい手続きは以下の通りである。

5.1.1 移行期間中の非接続 BIC (BIC1)

全ての既存の BIC1 に変更はなく、新しく非接続 (SWIFTNet と SWIFTNet FIN に非接続もしくは SWIFTNet FIN に非接続) の BIC が申請された場合にも 8 桁目に '1' が付与される。属性情報として接続ステータスが付与される。

BIC	Branch	Date	Name	Connectivity Status (接続ステータス)
WXYZUS31	XXX	01/09/2008	MyBank Inc.	001
ABCDBEB1	XXX	01/02/2015	Alpha Bank s.a.	001

5.1.2 移行期間中の接続 BIC

現行の手続きでは、SWIFT 加盟申し込み時に自動的に BIC1 が付与され、実際に接続が可能になった際に BIC1 を削除して別の BIC (8 桁目の他の英数字にする) に置き換えている。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)
ABCDBEB1	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a.	Added
ABCDBEB1	XXX	01/12/2012	Alpha Bank s.a.	Deleted
ABCDBEBB	XXX	01/12/2012	Alpha Bank s.a.	Added

移行期間の開始に伴い手続きの改善と簡素化が図られ、実際に加盟機関が接続する際に接続 BIC のみ新しく付与されるようになる。

BIC	Branch	Date	Name	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEBB	XXX	01/02/2015	Alpha Bank s.a.	003

5.1.3 既存の非接続 BIC における接続ステータスの変更

現行の手続きでは、非接続 BIC 削除の後、新しい接続 BIC が付与される。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)
ABCDBEB1	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a.	Added
ABCDBEB1	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Deleted
ABCDBEBB	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Added

移行期間からは、古い非接続 BIC と新しい接続 BIC が 1 ヶ月間共存する。これにより、現行の手続き（非接続 BIC 削除の後、新しい接続 BIC を付与）に起因する業務上の問題が解消される。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEB1	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a.	Added	001
ABCDBEBB	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Added	003
ABCDBEB1	XXX	01/04/2014	Alpha Bank s.a.	Deleted	001

5.1.4 既存の接続 BIC における接続ステータスの変更
 現行の手続きでは、接続 BIC 削除の後、新しい非接続 BIC が付与される。

BIC	Branch	Date	Name	Modification status (変更ステータス)
ABCDBEBB	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a.	Added
ABCDBEBB	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Deleted
ABCDBEB1	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Added

移行期間からは、古い接続 BIC と新しい非接続 BIC が 1 ヶ月間共存する。これにより、現行の手続き（接続 BIC 削除の後、新しい非接続 BIC を付与）に起因する業務上の問題が解消される。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEBB	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a.	Added	001
ABCDBEB1	XXX	01/03/2014	Alpha Bank s.a.	Added	003
ABCDBEBB	XXX	01/04/2014	Alpha Bank s.a.	Deleted	001

5.1.5 例外処理
 例外処理が必要なケース（接続 BIC を持つ金融機関の銀行免許が停止となる、監督官庁や中央銀行が SWIFT に特定の金融機関のネットワーク接続を停止するよう求める、等）について、現行の手続きでは、速やかに BIC をネットワークならびにデータベースから削除するとされている。
 移行期間からは、対象となる機関の接続 BIC を削除し、同時に非接続 BIC を付与することとする。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEBB	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a	Added	001
ABCDBEB1	XXX	15/03/2014	Alpha Bank s.a	Added	003
ABCDBEBB	XXX	15/03/2014	Alpha Bank s.a	Deleted	001

5.2 BIC データレコードについて

改訂版標準では、BIC データレコード（詳細は資料を参照）が新しく使用される。BIC データレコードには、必須の属性情報がある。

- 正式名称
- 登記上の住所
- ステータス（金融機関・非金融機関、下記 5.3 を参照）
- 新規記録の掲載日
- 記録更新日
- 記録失効日（必要な場合のみ）
- 申請機関による情報更新の表示

ブランチ・コードがある場合、所在地、部署、もしくは提供しているサービスとその提供場所などの情報を該当箇所に記述する必要がある。

ISO 登録手順には、BIC の登録と維持に関わる各関係者の役割と義務が述べられている。

‘Applicant（申請機関）’とは、自身もしくは第三者のために BIC の登録を依頼する機関である。

申請機関は、BIC に添付される情報の正確性と完全性に責任があり、BIC データレコードの情報更新についても、その正確性についても責任を持つ。

RA は登録依頼の処理と BIC データレコードの掲載に責任を持つ。改訂版標準導入の一環として、SWIFT は情報更新と維持を円滑に行うための新しいツールを提供する。また、少なくとも一年に一回、BIC データレコードの内容を見直すようユーザーに通知する。

既存の BIC については、RA が SWIFT の情報にもとづいて BIC データレコードの属性情報を可能な限り記入する。また、BIC 申請機関に対して、情報の検証と更新を依頼するキャンペーンを実施する。

5.3 カテゴリー（金融機関・非金融機関）について

2009 年の標準改訂より、BIC は金融機関と非金融機関を表すコードとなった。2014 年の標準改訂ではこれら二つのカテゴリーについて明確に定義された。

A. 金融機関

主に金融業務及び／あるいは金融業務に付随する業務を行う機関である。典型的には、送金、証券、預金、融資、保険、投資等の為に金融資産を取得し、同時に市場における金融取引の債務を資産計上する。金融機関は、下記のいずれかである：

- i. 金融市場の監督官庁に免許、許可もしくは登録され、かつ監督される機関
- ii. 送金、証券、銀行、融資、保険、投資等を主に行う国際的、多国籍、多国あるいは一国の政府または政府機関（中央銀行を含む）

B. 非金融機関

上記の範疇で定義されない機関で、商品やサービス（金融サービスを除く）提供を行う機関とする。一部の非金融機関では二次的に消費者金融を顧客に提供したり、資金管理機能を有するが、主たる業務が金融業務でないことにより非金融機関とする。

移行期間から、新規登録の際には新しい属性情報として FI もしくは Non-FI という情報の提供が必要となる。既存の BIC については、SWIFT が既存の情報にもとづいて属性情報を記入する。各機関は情報を検証し、必要な場合に訂正を行う。

BIC	Branch	Name	Category (カテゴリー)
CHASUS33	XXX	JP Morgan Inc	FI
AIRFFRP1	XXX	Air France – KLM s.a.	Non-FI
DEUTDEFF	XXX	Deutsche Bank AG	FI
CCHBNL2A	XXX	Coca Cola Finance bv	Non-FI

5.4 機関コード（Institution code）から Party prefix へ

現在、一旦付与された機関コード（BICの1-4桁目）は、当該機関及びその関係機関（グループ会社等）のために留保される。しかし実際には、留保されたコードを全世界のグループ会社のために使用していない機関もある。また、合併、統合、組織改変等の変化には対応しきれない面がある。

従って、コードそのものによる機関の特定には限界があり、BICの情報に基づいて組織やグループ全体のエクスポージャーを把握するようなことは不可能と見てよい。

合併や統合を行っても、コストを考えてBICを変更しないケースが多くある。例えば、SEPAではBICとIBANが紐付けられているため、BICの変更を行うとその周知徹底とシステム変更非常に経費がかかる。異例処理として以下のようなケースがある：

- Bank of New York Mellonは、IRVTUS33（旧 Irving Trust BankのBIC）と MELNUS33（旧 Mellon BankのBIC）を併用している
- Lloyds Plcは、HLFXGB2L（旧 Halifax BankのBIC）、TSBSGB2S（旧 TSBのBIC）、及びBOFSGB22（旧 Bank of ScotlandのBIC）を使用している
- Royal Bank of Scotlandと新しいABN Amro Bankはそれぞれ別の法人であるが同じABNAを使用している。

改訂版標準では、「機関コード（Institution code）」は特に意味を持たない「Party prefix」に変わる。移行期間より、新しいルールに基づいて1-4桁目が付与される：

- 新規のBIC登録でも、すでに当該機関がBICを保有している、あるいはそのグループ会社がBICを保有している場合、既存の1-4桁目が使用される。既存の1-4桁目のコードを当該機関が保有し続けたい場合には、他の機関にはそのコードは使用されない。
- 新規のBICでまったくBICを持たない機関には、RAの裁量によりParty prefixが付与される。Party prefixにおいては、コードに特定の意味をもたせることはない。

BIC	Name	Detail
SOGEFRPP	Societe Generale s.a.	Existing BIC for Societe Generale France
SOGZWHH	Societe Generale Ltd	New BIC for Societe Generale Zimbabwe
PQRSZWHH	New Bank Ltd	New BIC for New Bank Zimbabwe

5.5 時差の属性情報と Party suffix

現在、BICの7-8桁目には特定の国の中での所在地情報が反映されている（Location code）。国内で複数の時差が発生する国の場合、7桁目の英数字でそれぞれの時差情報を表すことができ、国内である地域から別の地域（時差の異なる地域）に住所を変更した場合には、現行のBICを削除して新しいBICを付与することになる。

改訂版標準では、Location codeは「Party suffix」として再定義され、時差情報等の意味を持たない。移行期間より、新しい時差の属性情報がSWIFTRefディレクトリーに導入される。

BIC	Branch	Name	Region	Time zone
XWYZUS33	XXX	Mybank Inc	New Jersey	UTC-5
ABCDUS66	XXX	Alpha Bank NA	California	UTC-8
KLMNBEBB	XXX	Local bank s.a		UTC+1

5.6 データ管理

BICデータレコードには、BICの利用者によるデータベース管理を促進するため、新しくメタデータ属性情報が導入される。移行期間より、これらの属性は現在SWIFTディレクトリーで使用されている「modification flag（変更フラグ）」と併用され、改善されたものとなる。

現行の変更フラグ：

- A : Added (追加)
- M : Modified (変更)
- D : Deleted (削除)
- U : Unchanged (変更なし)

新しい属性情報：

- The date of publication of the new record (新規記録の掲載日)
- The date of last update of the record (記録の最終更新日)
- The date of expiry of the record (when applicable) (記録の失効 (適用可能な場合))
- An indication if the record is self-maintained (申請機関による記録更新の有無)

現行の変更フラグとの主な違いは、BIC が廃止となった場合でもデータの削除はなされず、期限日の情報とともに ‘Expiry (失効)’ とされることである。これにより、データ使用者は BIC の履歴情報を持つことができる。

‘Self-maintenance (申請機関による記録更新)’ も新しく導入される属性情報である。これにより、情報の正確性や適切なメンテナンスについて一定の判断が可能となる。

各シナリオについては資料 8.3 を参照。

6. 移行期間後の扱いについて

- ISO 承認により、移行期間の期限は 2018 年 11 月と定められている。
- この期限は、意図して 2018 年の SWIFT の Standards Release (SR 2018 : 定例更改) と同じタイミングとなっている。最終段階で BIC の変更を導入する際、SR 2018 の作業とタイミングを合わせることで、より効率よく作業できる。

6.1 非接続 BIC (BIC1)

移行期間終了後より、接続ステータスは BIC の 8 桁目ではなく、SWIFTRef ディレクトリの一の属性情報で確認する。

6.1.1 新規の非接続 BIC

移行期間後より、新規の SWIFTNet FIN 非接続 BIC は ‘BIC1’ ではなくなる。(既存の BIC1 には変更なし。) 従って 2018 年 11 月以降、BIC1 でなくても SWIFTNet FIN への接続がない BIC が存在する。BIC の 8 桁目の情報のみで接続ステータスを判断することはできない。

BIC	Branch	Date	Name	Connectivity Status (接続ステータス)
WXYZUS31	XXX	01/05/2016	Mybank Inc	001
JKLMGB22	XXX	01/12/2018	Big Bank Ltd.	001
ABCDBEBB	XXX	01/12/2018	Alpha Bank s.a	003

6.1.2 既存の非接続 BIC : 接続ステータスの変更

既存の非接続 BIC (移行期間終了前までに付与された BIC1) が新たに SWIFTNet FIN への接続を開始する場合、新しい BIC が必要となる。業務への影響を限定的なものにするため、これには移行期間より開始された手続きと同様の手続きを適用する。(既存の BIC1 に加え、新しい BIC を付与し、二つの BIC を一ヶ月の間共存させる。一ヶ月後、BIC1 が失効する。この方法には、技術的な影響を軽減する効果があると予想されている。)

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEB1	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a	Added	001
ABCDBEB B	XXX	01/ 01 /2019	Alpha Bank s.a	Added	003
ABCDBEB 1	XXX	01/ 02 /2019	Alpha Bank s.a	Deleted	001

移行期間終了後に作成された SWIFTNet FIN 非接続 BIC の場合には、BIC そのものは変更されず、その接続ステータスのみ変更となる。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEB B	XXX	01/ 12 /2018	Alpha Bank s.a	Added	001
ABCDBEB B	XXX	01/ 01 /2019	Alpha Bank s.a	Modified	003

- 6.1.3 既存の接続 BIC : 接続ステータスの変更
 既存の接続 BIC の場合にも、BIC そのものは変更されず、その接続ステータスのみ変更となる。

BIC	Branch	Date	Name	Modification Status (変更ステータス)	Connectivity Status (接続ステータス)
ABCDBEB B	XXX	01/09/2012	Alpha Bank s.a	Added	003
ABCDBEB B	XXX	01/ 12 /2019	Alpha Bank s.a	Modified	001

6.2 時差の属性情報と Party suffix

移行期間終了後より、BIC の 7 桁目の英数字は時差の情報としてみなされず、属性情報に反映される。国内の各地域に時差がある国で所在地を変更した場合も、BIC の変更は不要となる。

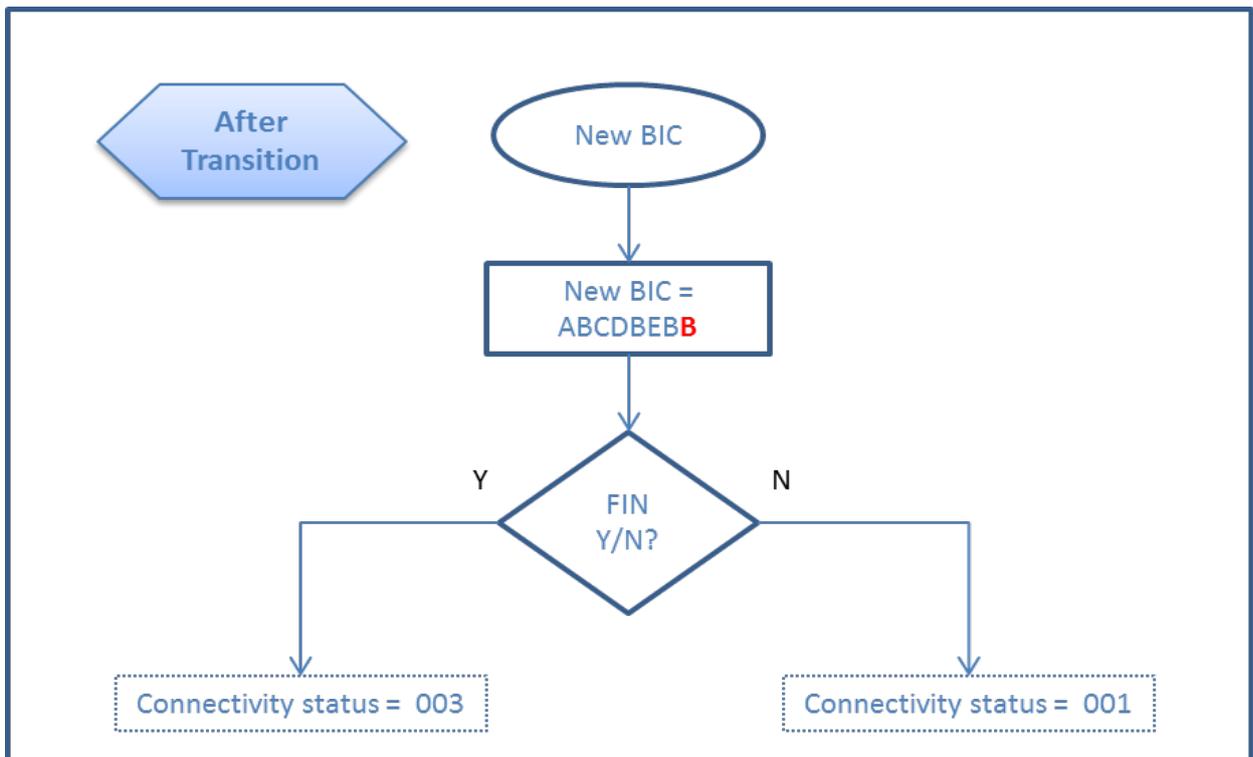
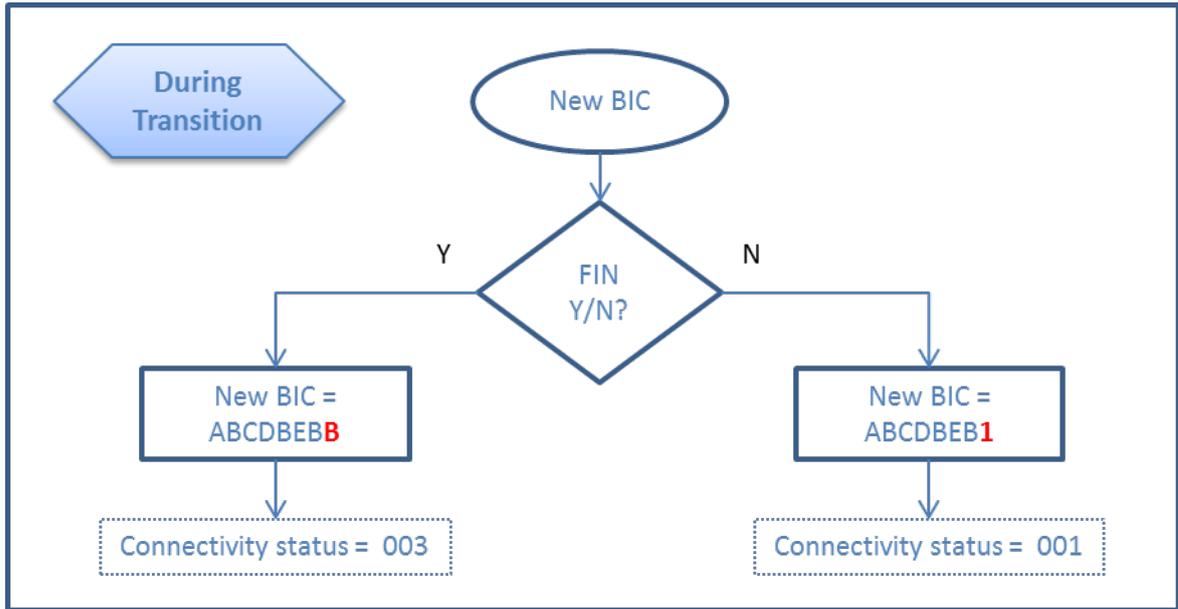
新規の BIC については、Party suffix は RA が適宜付与する。

7. BIC 掲載

- ユーザーへの影響を軽減するため、現行の BIC ディレクトリーは変更されず移行期間終了まで発行される。移行期間終了までは、接続ステータスの属性情報をみることなく BIC の 8 桁目のロジックを参照することができる。
- 一部のユーザーは、早い段階から新しい属性情報を利用したり、導入を開始することを希望する可能性がある。そのため、移行期間の始めにおいて、SWIFT は ISO 標準に定められた BIC データレコードを含む新しいディレクトリーの提供を開始する。また、SWIFTRef ディレクトリーで適切と思われる箇所をアップデートして新しい属性情報を提供する。
- SWIFT の電文送受信ソフトウェア製品のための特定の BIC ディレクトリー (Alliance Bank File) は、2015 年 1 月時点では変更されない。SWIFT は現在、新しい属性情報を含む Alliance Bank File について新しいソリューションを作成中であり、ユーザーへの業務上の影響を最低限にして移行期間後半に提供を開始する予定である。
- 新ディレクトリー及び更新版ディレクトリーの技術仕様は、2014 年第 4 四半期に SWIFTRef ウェブサイトに掲載予定である。

8. 資料

8.1 フロー図



8.2 BIC データレコード

ISO の定義によるフィールド

Field Name	Data
RECORD CREATION DATE	First publication date
LAST UPDATE DATE	
LAST VALIDATION DATE	
RECORD EXPIRATION DATE	
MAINTENANCE INDICATOR	Self / third-party application
BIC	Business Party Identifier
BRANCH CODE	Branch element
COUNTRY CODE	ISO-3166-1
REGISTERED NAME	Full legal name as listed in National Registers
BRANCH INFORMATION	Branch specification
INSTITUTION CLASSIFICATION	Financial / non-financial institution
<i>REGISTERED ADDRESS - Street name</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Building</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Floor</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Street number</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Post code / Zip</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - CITY</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Region, Province, State</i>	
<i>REGISTERED ADDRESS - Country</i>	

SWIFT の追加データフィールド

Field Name	Data
PREVIOUS REGISTERED NAME	Previous value when registered name change
INSTITUTION TRADING NAME	Name defined by the applicant
IDENTIFIER TYPE	Legal entity, Branch, Operational
NETWORK CONNECTIVITY	SWIFTNet, SWIFNetFIN, ...
REGION CODE	ISO-3166-2
TIMEZONE Reference	UTC reference

8.3 メタデータ属性

現行のディレクトリーにおける 'modification flags (変更フラグ)' と新しいメタデータ属性の併用

- A : Added (追加)
- M : Modified (変更)
- D : Deleted (削除)
- U : Unchanged (変更なし)

Field Name	Scenario 1	Scenario 2	Scenario 3	Scenario 4
MODIFICATION FLAG	A	M	U	D
RECORD CREATION DATE	01-Mar-15	01-Mar-15	01-Mar-15	01-Mar-15
LAST UPDATE DATE	01-Mar-15	01-Jul-15	01-Jul-15	01-Mar-15
LAST VALIDATION DATE	01-Mar-15	01-Jul-15	01-Mar-16	01-Mar-16
RECORD EXPIRATION DATE	-	-	-	01-Dec-16

- Scenario 1 = 2015年3月1日に新規 BIC を作成
- Scenario 2 = 2015年7月1日に既存 BIC の住所を変更
- Scenario 3 = 2016年3月16日に年次の BIC 情報検証を実施
- Scenario 4 = 2016年12月1日に BIC が失効